

Facebook を利用したキャリア学習環境

Designing the Learning Environment for Career Learning by Using Facebook

山内 祐平*1 高橋 薫*1 藤本 徹*1 荒木 淳子*2 大辻 雄介*3 鈴木 久*3

Yuhei YAMAUCHI*1 Kaoru TAKAHASHI*1 Toru FUJIMOTO*1 Junko ARAKI*2

Yusuke OTSUJI and Hisashi SUZUKI*3

東京大学*1 産業能率大学*2 ベネッセコーポレーション*3

The University of Tokyo*1 The Sanno Institute of Management*2

Benesse Corporation*3

〈あらまし〉 高校生と大学生・社会人をソーシャルメディアでつなぎ、高校生の学習を支援する Socla プロジェクトにおいて、高校生 23 名が大学生や社会人の Facebook を利用したサポートのもと、働くことや大学進学の意味について自ら設定した課題を追求する活動を行った。Facebook の利用状況・質問紙調査・事例分析から、部分開放型のソーシャルメディア利用による学習の可能性が示唆された。

〈キーワード〉 ソーシャルメディア ソーシャルラーニング キャリア学習

1. 研究の背景と目的

ソーシャルメディアによって多様な人々がつながることによって、自然発生的な発見や知識獲得が行われることは、ソーシャルラーニングと呼ばれている(Bingham and Conner, 2010)。

最近はこのような学習を意図的にデザインする試みも増えてきているが、その可能性を生かし切れているとはいえない。ソーシャルラーニングが 1990 年代に行われた電子掲示板を利用した交流学习と大きく異なっている点は、開放型の人的ネットワークを利用することにあるが、オープンであることを生かしながら、学習の持続を保証することが難しいからである。

そこで、授業において SNS 利用の実績がある(尾澤ほか, 2010) キャリア学習をテーマにとり、ソーシャルラーニングを持続的に展開するための学習環境について検討を行うことにした。

本稿は3年間のプロジェクトにおいて2年目の報告にあたり、Twitter のかわりに Facebook を利用してキャリア学習を展開することが可能であるか確認した上で、学習環境の形成的評価を行うことを目的としている。

2. プロジェクトの概要

2011年度の Socla プロジェクトは7月30日より8月13日の2週間にわたり実施された。対面学習とオンライン学習を組み合わせ合わせたブレンド

型学習プログラムになっている。

高校生は首都圏、大阪府、宮城県の高校 2 年生 23 名が参加した。

ボランティアサポーターは 32 名(社会人 22 名,大学生 7 名,大学院生 3 名)であり、高校生が個別で調査する間、Facebook を利用してオンラインでサポートした。Facebook の会議室はプロジェクト参加者に閉じられているが、サポーターが確認した上で一般の人々に質問を転送することにより多様な人々のコメントを得る仕組みになっている。また、6名のファシリテーター(大学院生)を配置し、学習状況の確認とサポーターのコーディネートを行った。

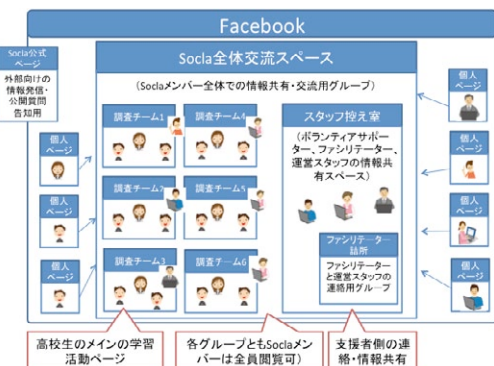


図1: Facebook 上の会議室構成

対面のキックオフワークショップでは、個人ごとに調査テーマの設定を行った。具体的なテーマとしては、「文系女子はパイロットになれるのか」「舞台俳優や声優の仕事に就くために大学へ行く意味はあるのか」など、自分の進路と直結するものが多かった。

その後、高校生は自宅で Facebook を利用して Web にアクセスしながら仮説に沿って調査活動を行った。最終発表会では2週間の調査結果をポスター発表した。

3. ソーシャルメディアの利用状況

総投稿数は 5108 件（高校生からの投稿が全約 6 割、支援者からの投稿が約 4 割）であり、学習の報告・相談を起点とし、高校生に支援者が応えるという流れで推移している傾向が見られた。

2010 年度に利用した Twitter に比べると学習に関する投稿が増えたが、意識して雑談を入れないと場の雰囲気がかたくなりすぎ、離脱を招きやすいことも示唆された。

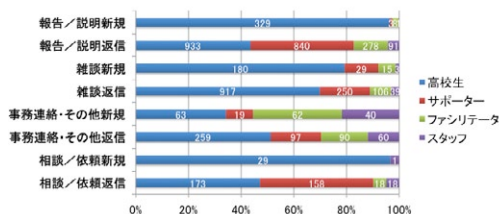


図2：投稿内容別の新規スレッド・返信内訳

図3はメッセージによる相互作用をネットワーク図として可視化したものである。ネットワーク図としては高密度であるが、サポーターの関わりは学習者の関わり方に比べて密度が低いことがわかる。

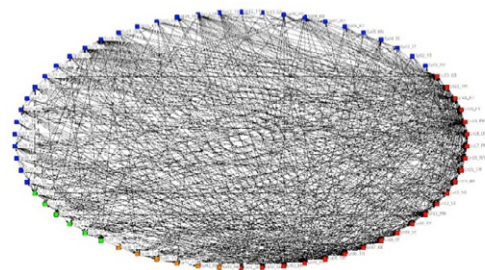


図3：参加者間相互作用のネットワーク図
(右下：学習者，左上：サポーター)

4. 質問紙調査の結果

プロジェクトの事前・事後にキャリアに関する意識変容に関する調査を行い、その変化を確認したところ、将来への希望の増大、進路決定に対する不安の軽減、進路決定に対する相談希求の増大などの効果が確認された。

また、Facebook を通じ活発に他者と交流した高校生ほど「将来に希望がもてる」と回答していることが明らかになっており、Facebook 上での交流がこの変化の要因であることが示唆された。

5. 結果と今後の課題

個別の事例を見ても、公開質問から得た情報が生徒の問題解決に決定的な意味を持ったケースが数例あり、サポーターを経由する形でオープンネットワークの人的資源を利用するという半公開型モデルには一定の成果があったと考えられる。

2012 年度の実践においては、2011 年度の形成的評価からデザインに修正を加え、オンラインのみの参加とブレンド型学習の比較研究を行う予定である。

※本プロジェクトは、東京大学大学院情報学環ベネッセ先端教育技術学講座(BEAT)と(株)ベネッセコーポレーションの共同研究として行われている。

参考文献

Bingham, T. and Conner, M. (2010) *The New Social Learning - A Guide to Transforming Organizations Through Social Media*, Berret-Koehler Publishers.

尾澤重知, 加藤尚吾, 西村昭治 (2010) 社会人メンターを導入した中学校でのキャリア教育の実践と評価. 日本教育工学会論文誌, 33(3): 321-332.

山内祐平 北村智 椿本弥生 御園真史 大辻雄介 鈴木久 (2011) 「ソーシャルメディアを利用したキャリア学習環境」日本教育工学会第27回大会講演論文集